

## 為替週間展望 = ドル円は一段高を試す展開か

[10月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月10日～10月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	145.17	147.67(13)	145.17(10)	147.44	+2.19
ユーロ・ドル	0.9745	0.9808(14)	0.9633(13)	0.9787	+0.0043

  

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,090.76	-25.35	日本10年債利回り	0.252	0.000
ダウ平均株価	30,038.72	+741.93	米10年債利回り	3.944	+0.062

<来週の主要経済統計等>

- 17日 英10月ライトムーブ住宅価格  
日本8月鉱工業生産指数確報値  
米10月NY連銀製造業景気指数
- 18日 NZ第3四半期消費者物価指数  
中国第3四半期GDP  
中国9月鉱工業生産指数、中国9月小売売上高  
独10月ZEW景況感指数  
米9月鉱工業生産・設備稼働率  
米8月対米証券投資
- 19日 英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、英9月小売物価指数  
ユーロ圏9月消費者物価指数確報値  
米9月住宅着工・許可件数  
カナダ9月消費者物価指数、カナダ9月鉱工業製品価格  
アジア太平洋経済協力会議 (APEC) 財務相会合 (21日まで)
- 20日 日本9月貿易収支  
豪9月雇用統計  
独9月生産者物価指数  
ユーロ圏8月経常収支  
米新規失業保険申請件数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数  
米9月中古住宅販売件数、米9月景気先行指数  
欧州連合 (EU) 首脳会議 (21日まで)
- 21日 NZ9月貿易収支  
日本9月消費者物価指数  
英9月小売売上高  
カナダ8月小売売上高  
全国信用組合大会 鈴木財務相、黒田日銀総裁があいさつ

【前回のレビュー】FRBは利上げ姿勢を継続、日銀は緩和姿勢を継続となり、ドル円は底堅い推移が続く。一方で介入警戒感もあり、上値は抑えられやすい展開となり、こうした中、ドル円は143～145円台の推移が継続するとした。

【ドル円は147円台寄せ】

米国では7日に発表の9月の米雇用統計が堅調な動きを見せたことで、米連邦準備制度理事会 (FRB) は今後も積極的な利上げに動くとの見方が広がった。FRB高官からも今後の積極的な利上げを示唆する発言が出ており、ドル買い円売りの動きにつながった。日銀は依然として緩和姿勢を変更する気配は見られず、ドル円の堅調な流れが続いている。

ドル円は9月22日に145.90まで上昇した後、政府・日銀による円買い介入が見られたことで、145円近辺あるいは、その上の水準では介入警戒感から上値を抑えられやすくなっていた。そうした中、12日の東京市場では146円を突破した。さらに同日のNY市場では、ドル円は146円台後半までドル高円安が進行した。ただ、今回は上昇ペースが緩やかだったこともあり、前回の高値をあっさり更新して、146円台に乗せた。

注目された13日発表の9月の米消費者物価指数は前月比+0.4%（予想+0.2%、前回+0.1%）、前年比+8.2%（予想+8.1%、前回+8.3%）となった。コアは前月比+0.6%（予想+0.5%、前回+0.6%）、前年比+6.6%（予想+6.5%、前回+6.3%）となった。

市場予想を上回ったことで、FRBによる積極的な利上げ観測が広がり、米長期金利が上昇するとともにドル買い円売りの動きが強まった。一時147.67近辺まで上昇して1990年8月以来、およそ32年ぶりのドル高円安水準を付けた。

CME FEDウオッチでは次回11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での0.75%の利上げ確率は99.5%程度まで上昇しており、ほぼ確実視されている。9月時点でのFOMCでの政策金利見通しでは、今年あと1.25%の利上げが見込まれていて、11月の会合で0.75%、12月の会合で0.5%の利上げがあるとの見方が広がっていた。ただ、今回の米消費者物価指数の上振れを受けて、12月の会合でも0.75%の利上げに動く確率が66.8%前後まで上昇している。

強い米消費者物価指数の結果を受けて、FRBは一段と利上げ姿勢を強めるとみられる。一方で、日銀は緩和姿勢を継続しており、ドル円は上昇基調で推移するとみられる。介入警戒感や実際の円買い介入で、ドル円が一時的に下落しても、緩やかに上値を迫る流れは継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、145.00～149.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に日本8月鉱工業生産指数確報値、米10月NY連銀製造業景気指数、18日に米9月鉱工業生産・設備稼働率、米8月対米証券投資、19日に米9月住宅着工・許可件数、20日に日本9月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数、米9月中古住宅販売件数、米9月景気先行指数、21日に日本9月消費者物価指数などがある。

#### 【ユーロドルは安値圏での振幅が継続】

ユーロドルは0.9700ドル近辺での振幅が継続している。ユーロ圏でのインフレ率の上昇を背景に欧州中央銀行（ECB）による大幅な利上げが見込まれており、これはユーロドルの支援材料となる。一方で、ユーロ圏の景気減速への警戒感の高まり、米国に比べて深刻な景気後退につながるとの見方も根強く、ユーロドルの上値を抑えている。

ウクライナ情勢ではロシアが強硬な姿勢を崩しておらず、ECBの利上げ期待だけで積極的にユーロドルを買い進む材料とはなりにくい。こうした中、ユーロドルは0.9700ドル台を中心に安値圏でのみ合いが継続するとみられる。0.95台では買いに支えられやすいものの、1.0000超の水準では上値を抑えられやすくなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9600～1.0100ドル。

ポンドは英国での政治的な混乱や英中銀（BOE）による英国債の緊急買入れ中止などを背景に荒れた動きを見せた後、上昇に転じている。11日に英中銀（BOE）のベイラー総裁は緊急措置として導入した英国債の購入について、14日で終了する方針を示したことで、市場の混乱が警戒されて、ポンド売りの動きにつながった。

13日に英国でトラス政権がこれまでの大規模な減税案の見直しに着手したと報じられたことでポンドが大きく上昇している。財源なき減税案が英国の財政に悪影響を及ぼすとの懸念が後退したことがポンドの上昇につながった。ポンドドルは10月12日の1.09台前半から1.13台後半まで上昇している。英国で減税案の見直しが進めば、ポンドドルは堅調に推移するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.

1000～1,160ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日に英10月ライトムーブ住宅価格、18日にNZ第3四半期消費者物価指数、中国第3四半期GDP、中国9月鉱工業生産指数、中国9月小売売上高、独10月ZEW景況感指数、19日に英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、ユーロ圏9月消費者物価指数確報値、カナダ9月消費者物価指数、カナダ9月鉱工業製品価格、20日に豪9月雇用統計、独9月生産者物価指数、ユーロ圏8月経常収支、21日にNZ9月貿易収支、英9月小売売上高、カナダ8月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。